

▼A 1号墳の遠景



▲A 1号墳の正面



▲B 1号墳の正面



埋蔵文化財包蔵地 山田ヶ谷北横穴群

History

キラリを再発見

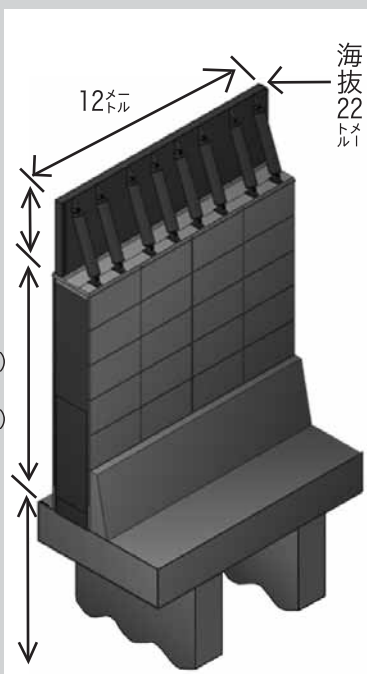
最終末期の横穴群

山田ヶ谷北横穴群A 1号墳は、昭和48年に作成された「静岡県埋蔵文化財調査カード」に坂田ヶ谷横穴群という名称で記入されていることから、かなり昔からその存在が知られていたと考えられます。B 1号墳は平成17年に新たに発見され、両墳ともに発掘調査が実施されました。

調査の結果、副葬品は須恵器と直刀の破片がわずかに出土しただけで、造られた年代は両墳とも平面形態がフラスコ形をしていることから、8世紀前半の奈良時代に構築された終末期の横穴であると考えられます。

新野川流域の横穴群は、大半が2～3基を最小単位とする群を成していますが、本横穴群は、A 1号墳、B 1号墳共に1基単独で構築されています。その理由は、最終末期に造られ、最初の横穴を造った段階で、次の代には横穴を造ることを止めてしまったため、1基単独になったのではないかと考えられます。

▼防波壁のかさ上げイメージ



中部電力は昨年12月20日、津波対策の安全性をより一層高めようと防波壁と東西盛土のかさ上げ、海水取水ポンプエリアの防水壁の高さ引き上げ、建屋開口部自動閉止装置の設置を発表しました。

中部電力では、内閣府から「南海トラフの巨大地震モデル検討会」第2次報告のデータ提供を受け、津波のシミュ

レーションに基づき浜岡原子力発電所に与える影響を評価しました。その結果、敷地内への浸水はあるものの、現在進めている津波対策により、原子炉を速やかに冷温停止できることを確認しています。

津波対策の強化は津波対策工事の完了目標としている平成25年12月を目標に進められます。

Atomic

暮らしと原子力

浜岡原子力発電所で
津波対策をさらに強化